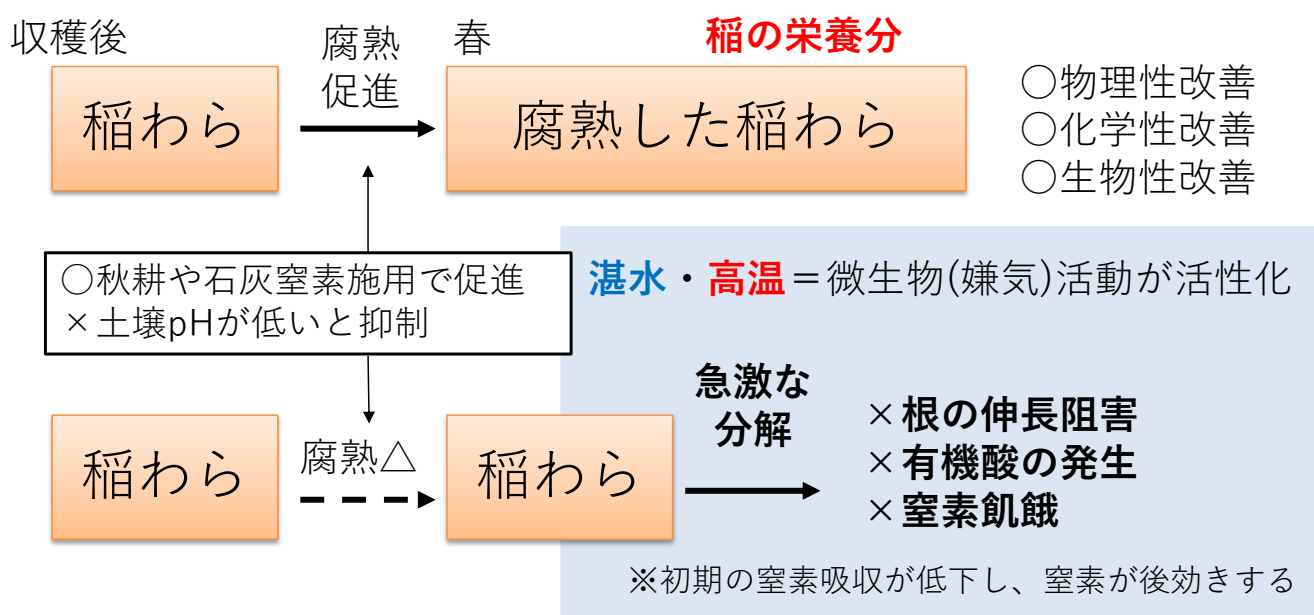


稲わら腐熟促進により、地力向上・田ワキ対策！

令和 8 年の栽培に向けて、今から取組みましょう！

1 秋耕のススメ ～地温が高い今がチャンス！～



【秋耕のメリット】

①地力の向上

稲わらをすきこむことで、地力が高まるとともに、土壌の水分や空気を保持する機能が増大し、気候変動に対する抵抗力を高める効果が期待されます。

②田ワキ対策

地温が高い秋のうちに稲わらの腐熟促進を図ることで、春の急激な稲わら分解による土壌の異常還元（田ワキ）を軽減し、スムーズな初期茎数確保につながることを期待されます。

【秋耕のポイント】

●稲刈り終了後、できるだけ早く実施しましょう！

地温が下がると、稲わらを分解する微生物の活動が低下します。

したがって、地温（気温）が高いうちに秋耕は実施しましょう（遅くとも 10 月中）。

●5 cm 程度の浅耕が効果的です！

浅耕により、酸素供給や地温上昇を高め、作業スピードも速くなります。

2 秋耕が難しい場合は、稲わら腐熟促進資材を散布！

圃場が乾きにくく、秋耕をすると春耕起の作業性が悪くなり実施が難しい圃場では、稲わら腐熟促進資材の散布を検討してみましょう。秋耕と同様に、地温（気温）が高いうちに散布するのが効果的です。

【例：石灰窒素の施用】

- 10a 当たり 10～20kg を目安に散布する。
- 「つや姫」では 10a 当たり 10kg を上限に実施し、地力が高い圃場や全量基肥栽培の圃場、数年間石灰窒素を連用している圃場では使用を控える。

土壌改良資材の散布で稲わら腐熟促進を！

- ・ 目標とする水田土壌 pH は 5.5～6.0 です。
- ・ 土壌 pH が低いと稲わらの腐熟が進みにくくなります。
- ・ 「石灰窒素」、「ケイカル」、「ようりん」等のアルカリ資材を秋のうちに施用し、土壌 pH の改善を図りましょう！

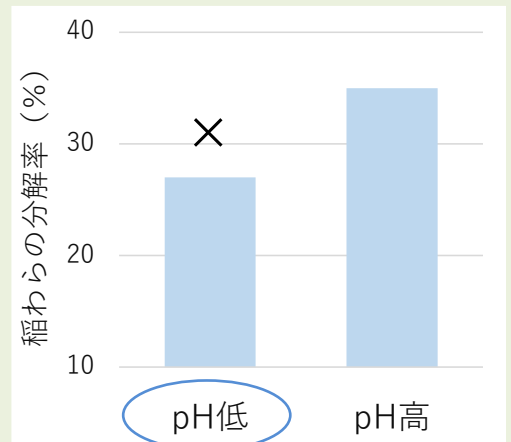


図 pH 値の稲わら腐熟への影響
(H27、農業総合研究センター)

< スタブルカルチ施工実演会 のご案内 >

- 日時：令和7年10月8日（水）
午前9時～11時
- 場所：酒田市広野 現地圃場
- 実演会の内容
 - ・ スタブルカルチによる深耕作業の実演
 - ・ 実施により期待される効果等の説明

※実演会への参加を希望される方は、
酒田農業技術普及課まで問合せください。
Tel：0234-22-6521 作物担当



“爪”により作土層を拡大し、根の伸長を促進し、
初期生育確保、登熟や収量向上につなげます。

「秋季農作業事故防止運動強化期間」 9月1日～10月31日